

ひがしとみおか・にしのくぼいせき
ひがしとみか・みなみまいせき
ひがしとみおか・きたまいせき

東富岡・西之窪遺跡
東富岡・南三間遺跡
東富岡・北三間遺跡第2地点

(伊勢原市No.130・160 遺跡)

調査期間 20090501～20101031

所在地 伊勢原市東富岡

時代
縄文
古代
中世
近世



作成日:20100427 更新:20110413

概要

本遺跡は、中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設に伴う事前調査として、2009年5月から2010年10月まで発掘調査を実施しました。

伊勢原市No.130・160遺跡は、北に伊勢原市運動公園、南にふじやま公園の存在する富岡丘陵周辺に広がる遺物散布地として知られており、丘陵の東側の道路建設にかかる3地点を対象として調査を行いました。

<東富岡・西之窪遺跡(伊勢原市No.130)>

- ・近世の耕作地であった。
- ・中世の作業場であったと考えられる。
- ・谷をわたる道状遺構・井戸・掘立柱建物・炭焼き窯が見つかっている。

<東富岡・南三間遺跡(伊勢原市No.160)>

- ・縄文時代～奈良・平安時代の丘陵上段の土地利用(居住スペース)
- ・中世以降の丘陵下段の土地利用(倉庫・屋敷地)
- ・鉄滓が大量に出土したが、鍛冶を行った遺構は検出できなかった。

<東富岡・北三間遺跡(伊勢原市No.160)第2地点>

- ・中世に平坦地が造成され、竪穴状遺構や鍛冶遺構等の作業スペースがつけられた。



▲ 遺跡と大山を望む



▲ 近世建物跡(土蔵)基礎部分

・奈良・平安時代の集落の一部と耕作の跡が見つかった。
現在はこれら3遺跡の出土品等整理作業を実施しています。土器の洗浄・注記や接合・復元作業、土器の実測作業や観察、測量した遺構の図面のデータ整理とトレース作業
これらの整理をしながら、現場では確認出来なかったことも分析しつつ成果をまとめています。



▲ 羽口と鉄滓



▲ 念仏銭